

## Indicators Update

2012年3月22日 全10頁

# 2月貿易統計～5ヶ月振りに貿易黒字へ転換

経済調査部 エコノミスト 長内 智

輸出は徐々に回復軌道へ復する見込み

### [要約]

- **【概況】輸出が市場コンセンサスを大きく上回る**：2012年2月の貿易統計は、貿易収支が黒字に転換したことや輸出に改善の兆しが出てきた点をポジティブに評価できる内容となったものの、特殊要因が大きく影響を及ぼしている点には少し留意が必要である。輸出金額は前年比▲2.7%と5ヶ月連続のマイナスになった。しかし、前月に見られたアジアの春節の影響がなくなったことや好調な米国向け輸出を背景に、市場コンセンサスを大きく上回った。
- **【地域・品目別動向(名目)】タイ向け輸出は5ヶ月振りのプラス**：主要品目別の輸出金額をみると、「電気機器」、「一般機械」、「化学製品」の減少が目立つ。他方、輸出が増加した業種では、米国向けの好調が続く「輸送用機器」が3ヶ月振りのプラスになった点が注目される。主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+11.9%（1月、同+0.7%）、EU向けが同▲10.7%（1月、同▲7.6%）、アジア向けが同▲6.6%（1月、同▲13.7%）となった。大洪水の影響で2011年10月から減少が続くタイ向けの輸出金額は、洪水からの復旧の動きが顕在化してきたことで、前年比+11.4%と5ヶ月振りの増加となった。
- **【今後の見通し】貿易収支は弱含み傾向が継続**：輸出は、2月半ば以降に歴史的な円高水準の修正が進んだことが徐々にプラス方向で作用するとみているが、足下では海外経済減速によるマイナスの影響が依然として重石となっており、しばらく横ばい圏で推移すると考える。ただし、世界景気と為替に基づく当社の輸出数量指数の推計値に下げ止まりの兆しが出始めている。そのため、輸出は、海外経済の持ち直しと円高の修正の動きが支えとなり、徐々に回復軌道へ復していくと見込む。

## 【概況】輸出が市場コンセンサスを大きく上回る

### 輸出に改善の兆し

2012年2月の貿易統計は、貿易収支が黒字に転換したことや輸出に改善の兆しが出てきた点をポジティブに評価できる内容となったものの、特殊要因が大きく影響を及ぼしている点には少し留意が必要である。輸出金額は前年比▲2.7%と5ヶ月連続のマイナスになった。しかし、前月に見られたアジアの春節（旧正月）の影響がなくなったことや好調な米国向け輸出を背景に、市場コンセンサス（同▲6.5%）を大きく上回った。また、2012年2月の営業日数がうるう年と祝日のタイミングのずれによって前年より2日も多かったという特殊要因もプラスに作用しているとみられる。輸出金額の基調を捉えるために季節調整値（3ヶ月移動平均）をみると、前月比+1.5%と5ヶ月振りのプラスに転じたことが注目される。輸入金額は、資源価格の高止まりと原子力発電所事故・稼働停止に伴う代替燃料の需要増加によって、前年比+9.2%と26ヶ月連続で増加した。この結果、貿易収支は+329億円と僅かながらも5ヶ月振りの黒字となった。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）～5ヶ月振りの貿易黒字

	2011年											2012年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
輸出金額	▲2.4	▲12.4	▲10.3	▲1.6	▲3.3	2.8	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.2	▲2.7	
コンセンサス												▲6.5	
DIR予想												▲7.1	
輸入金額	12.2	9.2	12.4	9.9	9.9	19.2	12.2	17.9	11.5	8.2	9.5	9.2	
輸出数量	▲3.1	▲11.5	▲10.5	▲2.6	▲5.2	0.9	1.4	▲4.0	▲4.4	▲6.6	▲10.1	▲3.8	
価格	0.7	▲1.1	0.2	1.0	2.0	1.9	0.9	0.2	▲0.1	▲1.5	1.0	1.2	
輸入数量	5.5	1.3	5.5	1.7	▲2.6	6.1	1.0	6.0	▲1.0	▲0.7	3.1	3.2	
価格	6.3	7.8	6.5	8.0	12.8	12.4	11.1	11.3	12.5	8.9	6.2	5.8	
貿易収支	1,709	▲4,777	▲8,607	645	697	▲7,775	2,888	▲2,830	▲6,912	▲2,083	▲14,769	329	

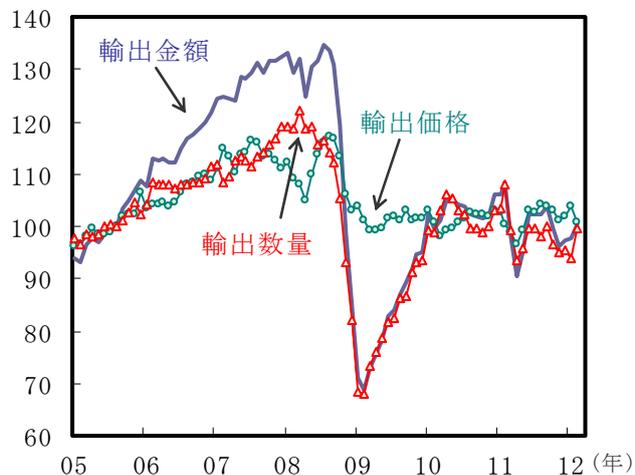
（注1）貿易収支は億円。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

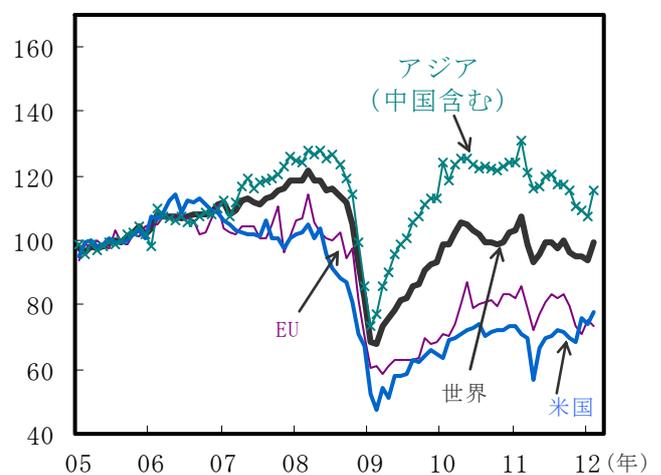
（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

図表2：輸出金額・数量・価格と地域別輸出数量の推移（季節調整値）～米国向けが好調

（2005年=100） 金額・数量・価格



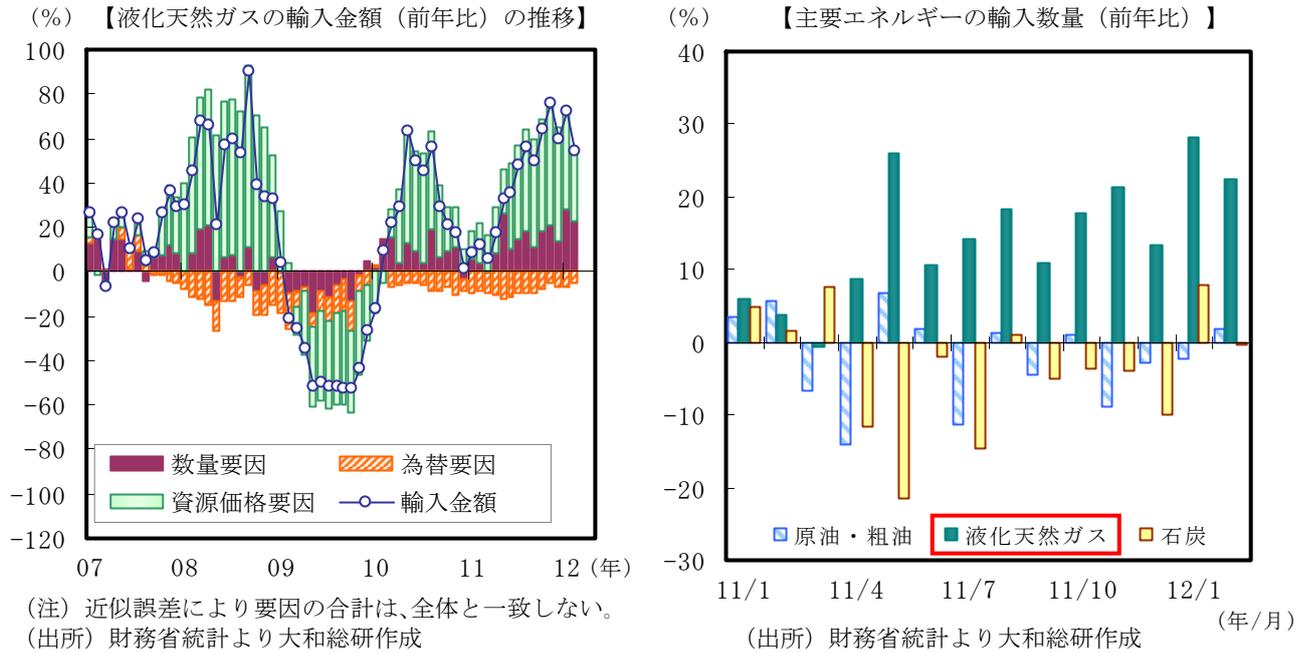
（2005年=100） 地域別の数量指数



（注）季節調整は「輸出金額」が財務省、他は大和総研。

（出所）財務省統計より大和総研作成

図表 3 : 液化天然ガスの輸入金額と主要エネルギーの輸入数量 (前年比)



## 【地域・品目別動向(名目)】タイ向け輸出は5ヶ月振りのプラス

## 「輸送用機器」が3ヶ月振りのプラス

主要品目別の輸出金額をみると、「電気機器」、「一般機械」、「化学製品」の減少が目立つ。世界的な IT 関連製品の需要鈍化が長引いている影響で「電気機器」は前年比▲3.4%と 12 ヶ月連続のマイナスとなった。また、アジア地域で景気減速感が強まっていることや欧州向けの低迷を受けて、「一般機械」が前年比▲1.4%と僅かながらも 6 ヶ月連続で減少した。他方、輸出が増加した業種では、米国向けの好調が続く「輸送用機器」が前年比+5.4%と 3 ヶ月振りのプラスになった点が注目される。輸入については、代替燃料の需要増加と価格高止まりを背景に、「液化天然ガス」の輸入金額が前年比+53.8%、輸入数量が同+22.5%と揃って大幅に増加した。

## 米国向け輸出が好調

主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+11.9% (1月、同+0.7%)、EU向けが同▲10.7% (1月、同▲7.6%)、アジア向けが同▲6.6% (1月、同▲13.7%) となった。米国向けは、同国の個人消費が堅調であることが日本の輸出増加に寄与しており、4ヶ月連続のプラスとなった。特に、米国の新車販売台数が好調であることを背景に、米国向け「輸送用機器」は前年比+20.0%と大きく増加した。EU向けは、財政金融問題に起因する実体経済の鈍化が重石となり、5ヶ月連続のマイナスと弱含み傾向が続く。アジア向けについては、2011年2月の水準がかなり高かった反動減が出ている一方で、春節の影響が剥落したため、マイナス幅が大きく縮小した。なお、大洪水の影響で 2011年10月から減少が続くタイ向けの輸出金額は、洪水からの復旧の動きが顕在化してきたことで、前年比+11.4%と5ヶ月振りの増加となった。

## 【今後の見通し】貿易収支は弱含み傾向が継続

### 輸出は徐々に回復軌道へ復する見込み

輸出は、2月半ば以降に歴史的な円高水準の修正が進んだことが徐々にプラス方向で作用するとみているが、足下では海外経済減速によるマイナスの影響が依然として重石となっており、しばらく横ばい圏で推移すると考える。ただし、世界景気と為替に基づく当社の輸出数量指数の推計値に下げ止まりの兆しが出始めている（図表4）。そのため、輸出は、海外経済の持ち直しと円高の修正の動きが支えとなり、徐々に回復軌道へ復していくと見込む。

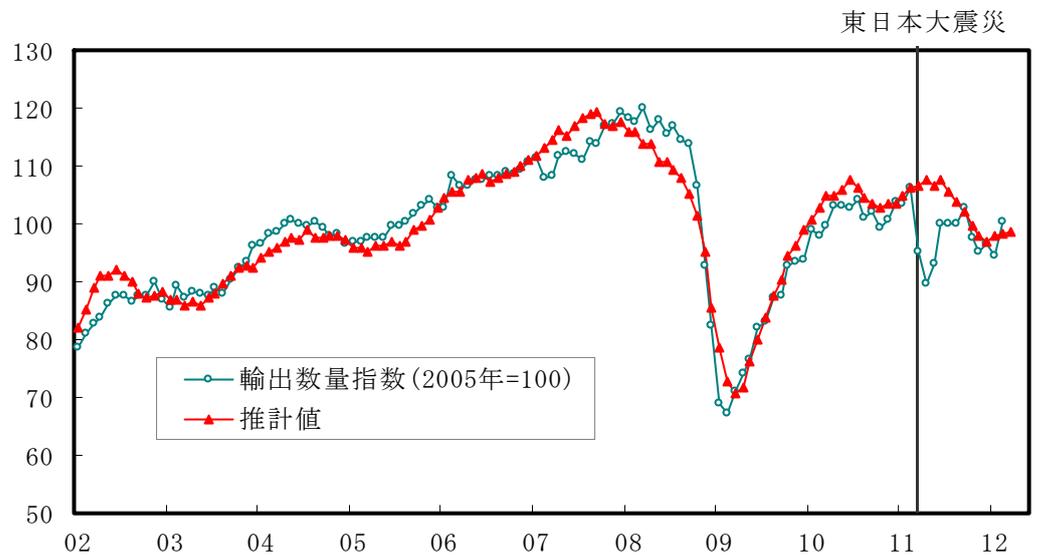
### EU向けは弱めの動きが続こう

最近、欧州の財政・金融問題に沈静化の兆しが見られている点が注目されるが、同地域の実体経済がいまだに減速傾向にあることを踏まえると、EU向け輸出は引き続き弱めの動きが続くと考えている。なお、3月以降の輸出の前年比では、東日本大震災で落ち込んだ前年からの反動増が押し上げに作用するため、基調判断を行う際には、その特異的な影響についてあらかじめ留意しておきたい。

### 貿易収支は弱含み傾向が継続する見通し

貿易収支は今月僅かながらもプラスとなったものの、（1）資源価格の高止まり、（2）原発の稼働停止に伴う代替燃料の輸入増加、（3）緩慢な輸出の回復などから、弱含み傾向での推移が続く見通しである。これまで伸び率が縮小傾向にあった輸入価格は、地政学的リスクや世界的な金融緩和に伴う原油価格の上昇、円高の修正を受けて、再び伸び率が拡大する公算である（図表5）。

図表4：世界景気と為替による輸出数量指数

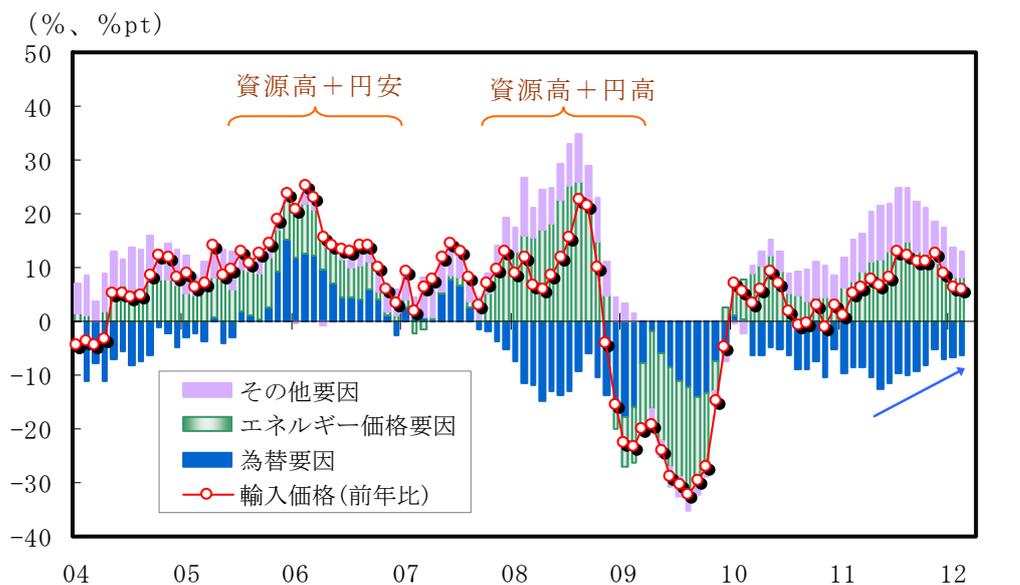


(注1) 輸出数量(推計値) =  $-130.80 + 2.63 \times \text{OECD\_CLI}[-2] + 0.18 \times \text{OECD\_CLI\_TR}[-2] - 0.53 \times \text{実質実効為替}[-2]$  (年)

\* 括弧内[ ]は先行月数。係数は全て1%有意。推計期間は02年1月～11年2月。  
OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。  
OECD\_CLI\_TRは、トレンド復元ベースのCLI。

(注2) 輸出数量指数の季節調整は内閣府、直近月は大和総研推計。  
(出所) 財務省、内閣府、OECD、日本銀行統計より大和総研作成

図表5：輸入価格指数（前年比）の寄与度分解

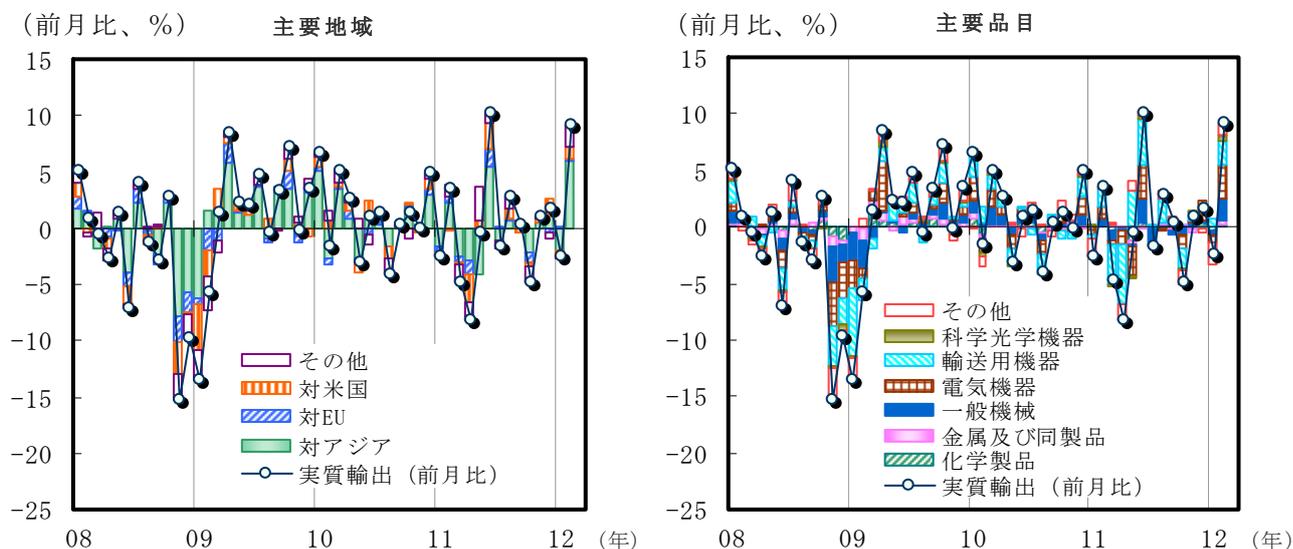


(注1) エネルギー価格要因は、鉱物性燃料（石油、天然ガス、石炭等）の寄与度。  
 (注2) 計算上の誤差により、寄与度の合計は輸入価格指数の前年比に一致しない。  
 (出所) 財務省統計より大和総研作成

### 【参考】実質輸出の動向

実質輸出（季節調整値、当社試算）は、前月比+9.2%と2ヶ月振りのプラスとなった。主要国・地域別では、米国向けが前月比+5.8%、EU向けが同+1.5%、アジア向けが同+11.2%となった。米国向けは「輸送用機器」が全体を牽引して堅調な伸びとなった。アジア向けは大幅な増加となったが、前月の春節（旧正月）による落ち込みからの反動増の影響を割り引いて評価する必要がある。EU向けは、財政金融問題に起因する実体経済の鈍化を背景に、小幅なプラスに留まった。

図表6：実質輸出（季節調整済み前月比）の主要項目別の寄与度

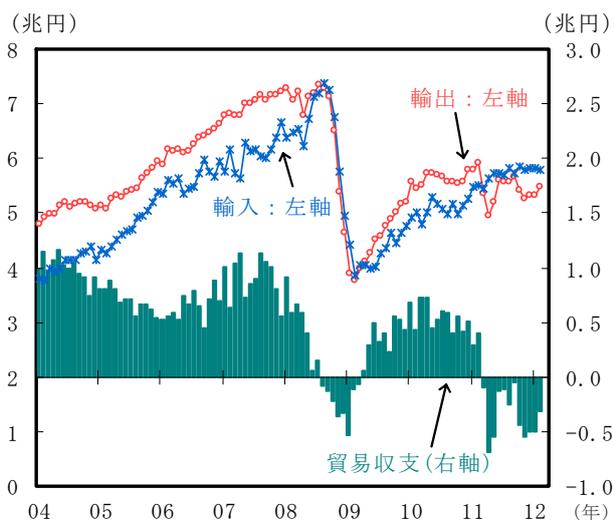


(注) 実質化と季節調整は大和総研。  
 (出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

**概況**

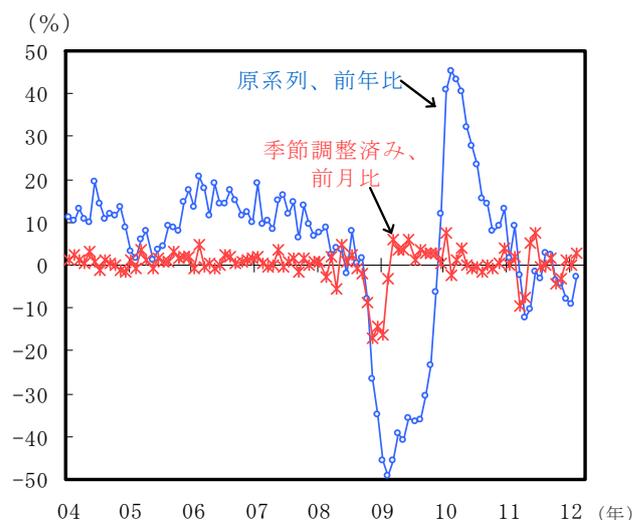
貿易収支（季節調整値）の赤字基調が継続

**輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）**

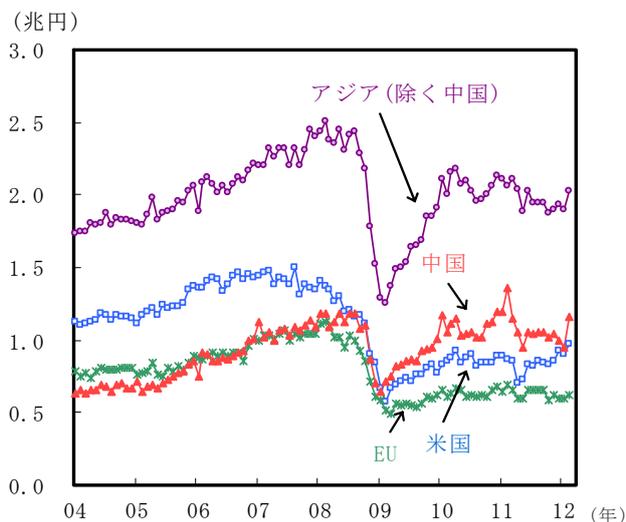


(出所) 財務省統計より大和総研作成

**輸出額の変化率（名目）**

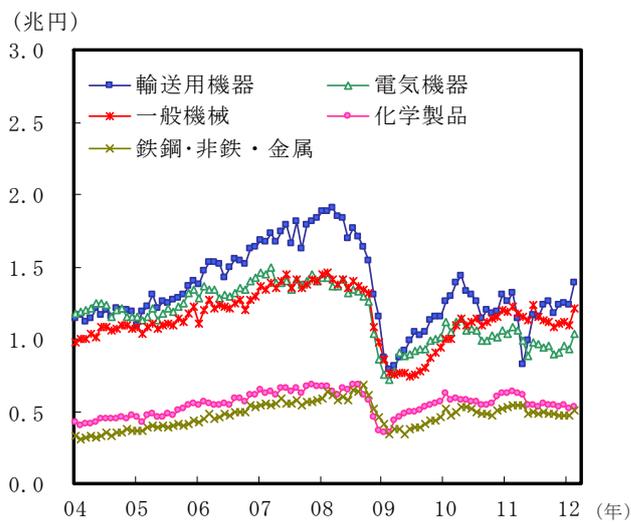


**主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）**

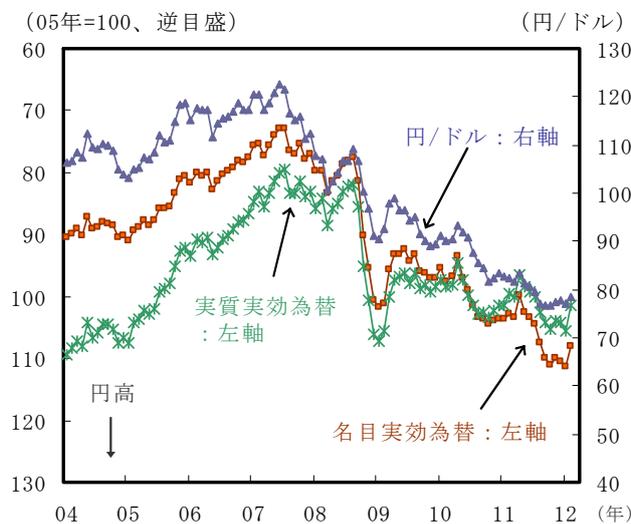


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

**主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）**

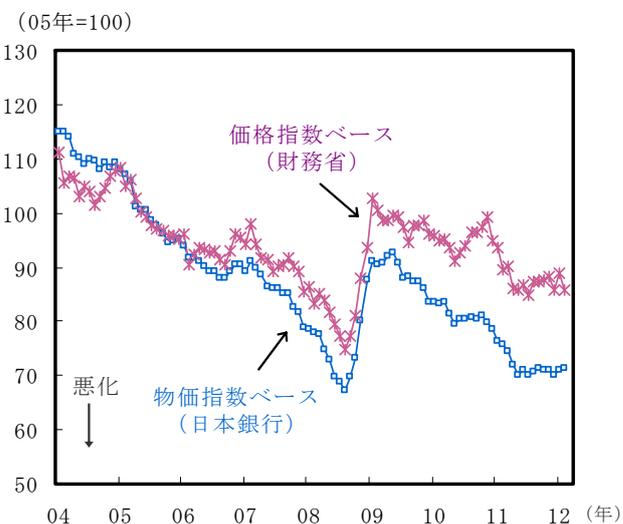


**為替相場**



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

**交易条件**



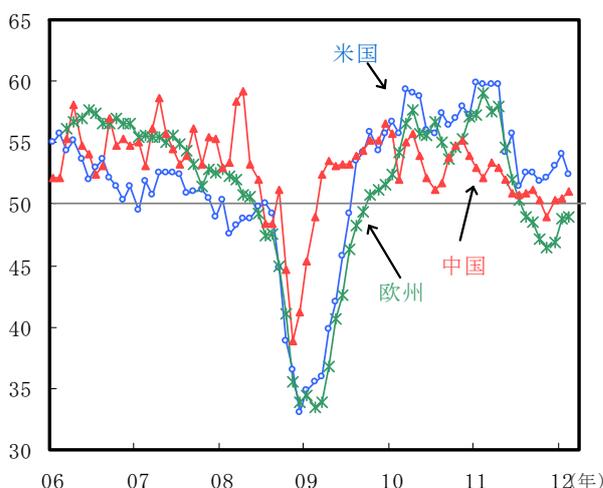
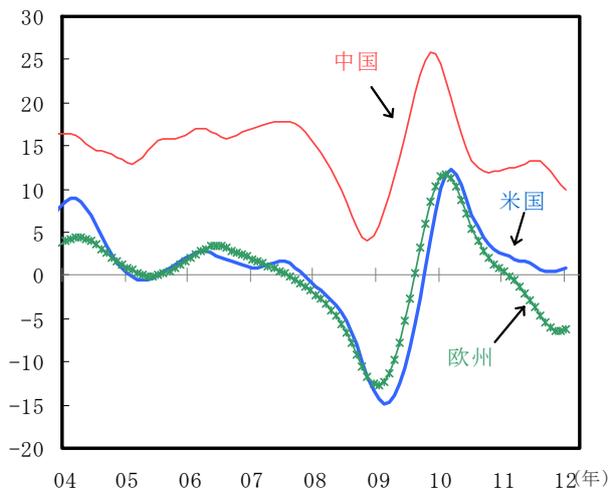
**海外環境**

米国と欧州の自動車販売で明暗が分かれる

**OECDの景気先行指数 (米国・中国・欧州)**

**製造業PMI (米国・中国・欧州)**

(前年比、%)

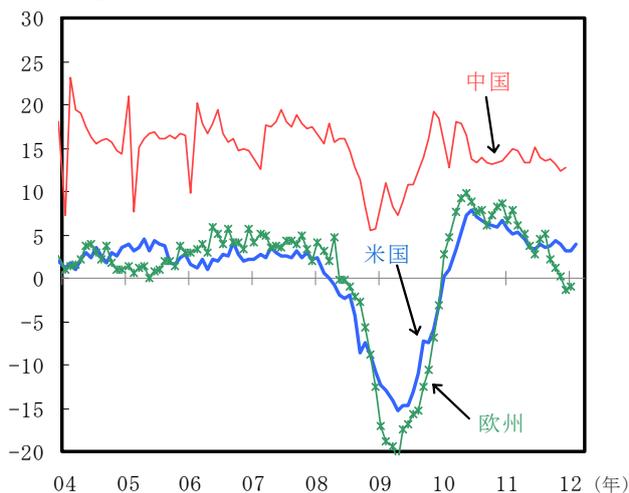


(注) 景気先行指数はトレンドを含むベース。  
(出所) OECD、米ISM、中国物流購買連合会、Markitより大和総研作成

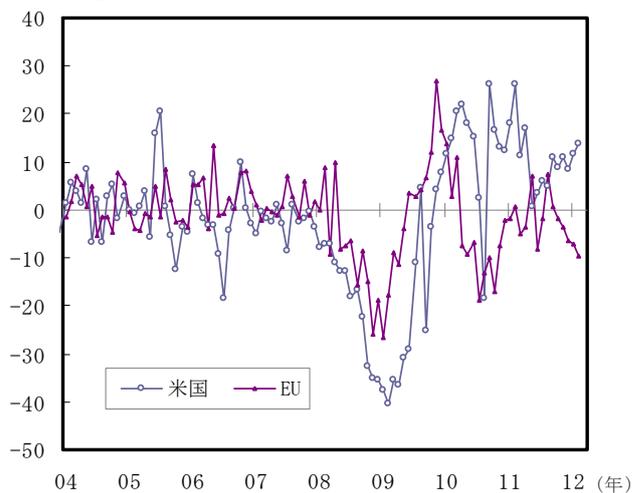
**鉱工業生産指数 (米国・中国・欧州)**

**米国と欧州の自動車販売**

(前年比、%)



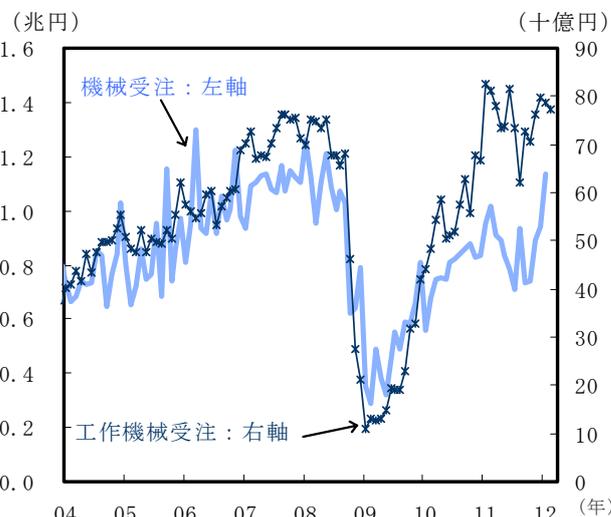
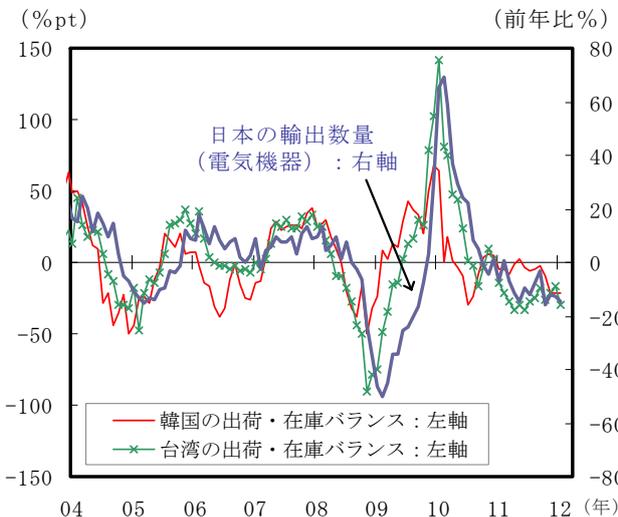
(前年比、%)



(出所) 中国国家统计局、Eurostat、FRB、オートデータ社、欧州自動車工業会(ACEA)より大和総研作成

**韓国・台湾の出荷・在庫バランス (電子部品)**

**機械受注と工作機械受注の外需 (季節調整値)**

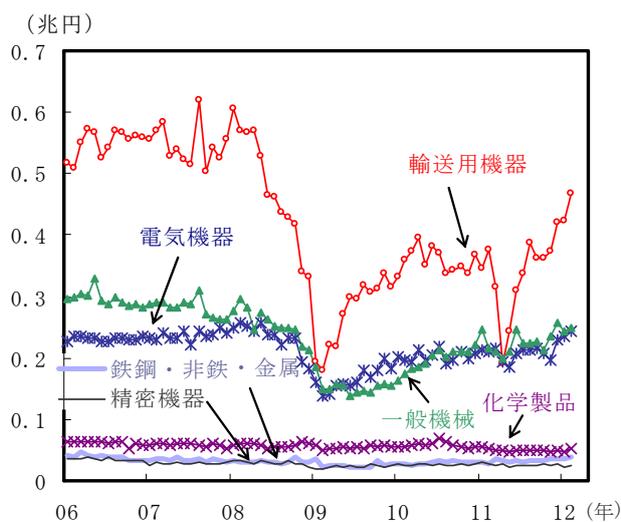


(注) 工作機械受注の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省、内閣府、日本工作機械工業会統計、CEICより大和総研作成

## 主要地域・国別の実質輸出(季節調整済み)

米国向け「輸送用機器」が好調

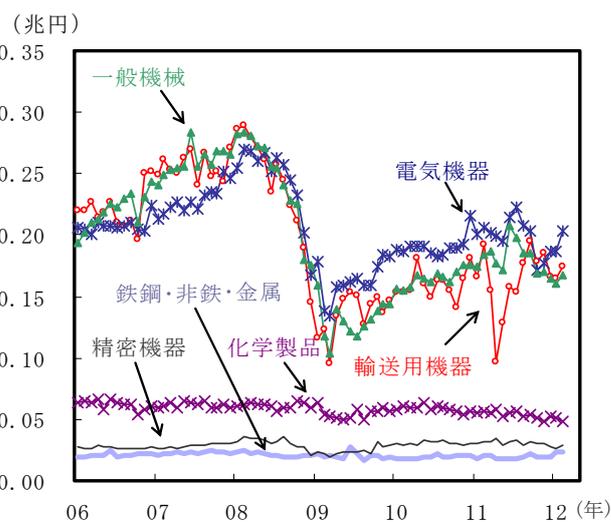
### 米国向け



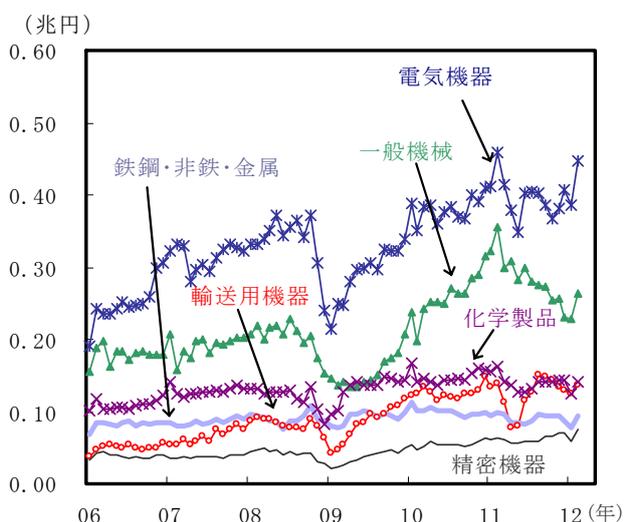
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

### EU向け



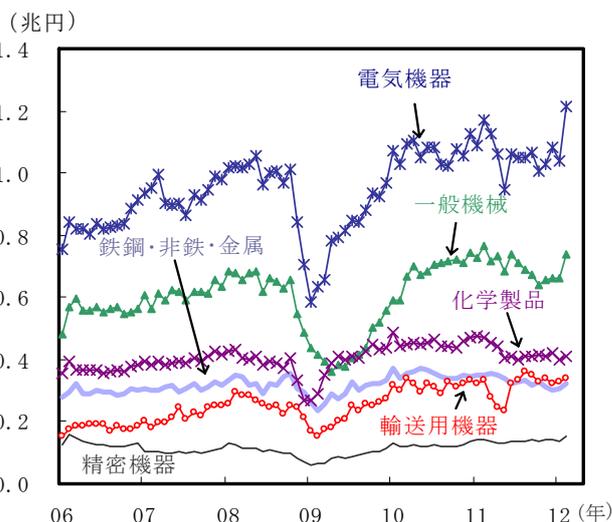
### 中国向け



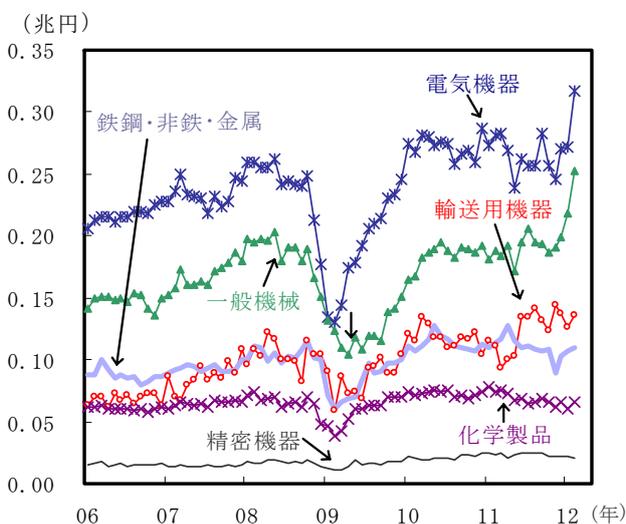
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

### アジア向け(中国含む)



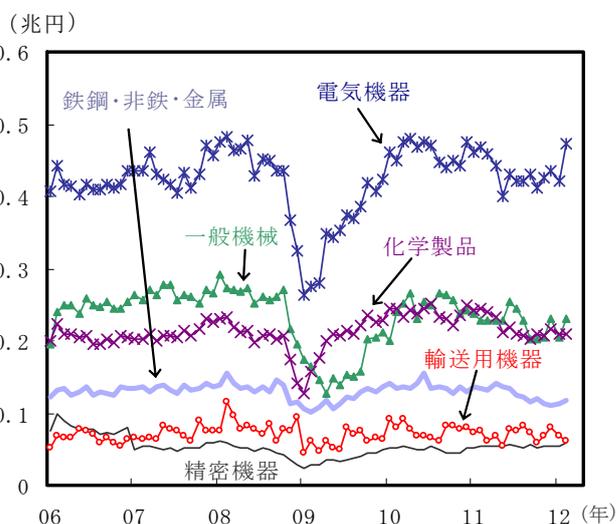
### ASEAN向け



(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

### NIES向け



## 輸出金額 内訳

	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.2	▲2.7	100.0	▲2.7
食料品	▲12.6	▲29.2	▲9.5	▲14.6	▲26.7	▲14.9	0.5	▲0.1
原料品	16.9	▲2.6	7.2	▲5.3	▲1.2	▲2.4	1.6	▲0.0
鉱物性燃料	8.1	40.3	▲3.2	▲30.8	▲33.9	▲37.9	1.1	▲0.7
化学製品	▲1.4	▲2.7	▲12.6	▲14.0	▲17.5	▲14.8	9.6	▲1.6
原料別製品	1.4	▲0.5	▲4.7	▲8.1	▲10.9	▲6.4	12.6	▲0.8
鉄鋼	▲4.6	2.5	▲9.2	▲11.4	▲11.3	▲12.6	5.1	▲0.7
非鉄金属	13.6	▲0.9	▲4.3	▲8.2	▲14.8	2.9	2.0	0.1
金属製品	4.5	1.1	0.9	▲4.2	▲3.9	3.7	1.6	0.1
一般機械	▲0.6	▲5.6	▲4.1	▲6.4	▲8.7	▲1.4	21.6	▲0.3
電気機器	▲4.0	▲12.3	▲10.7	▲10.1	▲10.0	▲3.4	17.0	▲0.6
半導体等電子部品	▲9.0	▲20.8	▲15.1	▲13.0	▲15.8	▲6.0	5.1	▲0.3
I C	▲7.6	▲21.8	▲12.4	▲7.8	▲12.8	▲5.0	3.4	▲0.2
映像記録・再生機器	▲9.6	▲11.8	▲52.1	▲31.9	0.9	▲1.5	1.0	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲17.8	▲27.3	▲20.4	▲23.5	▲17.5	▲12.6	0.5	▲0.1
電気回路等の機器	2.2	▲8.1	▲4.1	▲7.2	▲10.8	▲4.6	2.5	▲0.1
輸送用機器	5.1	▲0.2	3.9	▲4.2	▲1.4	5.4	24.7	1.2
自動車	4.9	6.1	▲0.6	▲4.1	2.2	7.4	16.0	1.1
自動車の部分品	11.5	0.4	3.6	▲5.5	▲4.9	▲1.2	4.8	▲0.1
その他	13.8	▲1.9	▲5.5	▲5.9	▲11.5	2.4	11.1	0.2
科学光学機器	13.9	9.2	10.9	▲1.1	▲7.0	4.5	3.1	0.1

## 米国向け輸出金額 内訳

	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.4	▲2.3	2.0	3.9	0.7	11.9	100.0	11.9
食料品	▲10.0	▲5.6	▲8.3	10.8	▲3.2	9.8	0.5	0.1
原料品	▲7.2	▲5.0	▲6.1	▲4.4	31.6	▲22.0	0.5	▲0.2
鉱物性燃料	▲91.3	873.3	830.8	▲34.8	▲25.3	▲35.0	0.0	▲0.0
化学製品	▲6.9	▲6.4	▲11.7	▲16.1	▲17.1	▲4.6	5.4	▲0.3
原料別製品	4.6	▲0.6	13.5	3.5	▲0.3	15.5	7.6	1.1
鉄鋼	13.1	14.0	30.8	14.8	19.1	75.8	2.5	1.2
非鉄金属	2.2	▲10.6	▲4.7	▲8.2	▲21.3	▲32.3	0.5	▲0.3
金属製品	13.5	12.2	22.7	12.5	1.9	18.7	1.7	0.3
一般機械	4.5	▲1.0	8.5	13.2	▲4.4	12.4	23.3	2.9
電気機器	0.8	▲8.2	▲8.8	1.7	1.1	7.2	14.4	1.1
半導体等電子部品	9.2	▲14.5	▲11.3	▲4.5	▲15.1	▲9.2	1.9	▲0.2
I C	13.1	▲17.1	▲11.8	▲9.9	▲26.9	▲5.4	1.2	▲0.1
映像記録・再生機器	▲4.0	▲19.4	▲58.6	▲34.8	17.9	▲3.4	1.3	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲16.0	▲13.4	▲6.1	▲9.7	▲7.9	▲11.0	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	▲7.8	▲5.1	8.3	2.0	▲3.6	8.9	1.5	0.1
輸送用機器	0.5	▲1.0	3.4	6.8	11.1	20.0	39.9	7.5
自動車	▲4.6	▲0.8	▲0.4	1.9	14.0	26.9	30.3	7.2
自動車の部分品	15.5	▲7.4	5.3	15.2	▲6.7	0.5	6.2	0.0
その他	▲1.6	▲6.7	▲6.2	▲11.8	▲11.2	▲2.1	8.3	▲0.2
科学光学機器	▲0.3	0.8	▲3.9	▲6.6	▲21.9	▲8.2	2.0	▲0.2

## EU向け輸出金額 内訳

	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	7.1	▲2.9	▲4.6	▲12.7	▲7.6	▲10.7	100.0	▲10.7
食料品	22.5	▲14.4	1.7	8.3	▲15.1	3.6	0.2	0.0
原料品	81.4	▲9.2	24.8	▲27.6	4.9	15.4	1.2	0.1
鉱物性燃料	▲97.1	▲95.9	▲97.6	▲90.7	▲87.2	▲97.3	0.0	▲1.5
化学製品	1.3	▲6.2	▲11.8	▲11.7	▲13.5	▲16.5	8.4	▲1.5
原料別製品	15.8	0.6	▲2.0	▲6.0	1.9	▲1.9	8.4	▲0.1
鉄鋼	4.2	▲8.3	▲22.0	▲31.2	▲13.3	▲40.5	1.2	▲0.7
非鉄金属	100.9	▲8.0	15.7	43.7	126.9	174.9	1.8	1.0
金属製品	▲1.4	▲1.6	▲0.9	▲13.1	▲14.6	4.0	1.6	0.1
一般機械	11.3	▲4.4	▲5.8	▲9.0	▲11.2	▲11.0	26.5	▲2.9
電気機器	▲1.5	▲15.8	▲14.9	▲20.0	▲13.8	▲9.0	18.7	▲1.7
半導体等電子部品	▲28.3	▲33.8	▲24.6	▲29.7	▲30.2	▲22.7	2.6	▲0.7
I C	▲19.9	▲18.2	▲2.5	▲7.7	▲19.4	▲16.0	1.3	▲0.2
映像記録・再生機器	▲8.7	▲30.1	▲53.9	▲51.9	▲19.6	▲21.7	2.0	▲0.5
音響・映像機器の部分品	▲47.0	▲52.1	▲32.8	▲35.1	▲20.3	▲22.3	0.5	▲0.1
電気回路等の機器	6.3	▲7.2	▲11.9	▲10.7	▲16.6	▲18.0	1.5	▲0.3
輸送用機器	20.4	21.1	5.9	▲14.6	▲9.2	▲12.6	22.7	▲2.9
自動車	31.9	25.1	▲13.7	▲20.1	▲29.7	▲31.0	11.7	▲4.7
自動車の部分品	9.4	5.4	4.7	2.3	2.6	▲0.2	6.1	▲0.0
その他	0.7	▲4.6	4.9	▲6.0	11.9	▲1.8	13.8	▲0.2
科学光学機器	3.2	▲1.2	3.1	▲11.5	▲15.8	▲7.8	3.7	▲0.3

アジア向け輸出金額 内訳								
	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.1	▲6.8	▲8.1	▲11.7	▲13.7	▲6.6	100.0	▲6.6
食料品	▲13.6	▲33.2	▲7.9	▲19.6	▲30.2	▲22.7	0.6	▲0.2
原料品	11.2	▲2.3	4.9	▲1.1	▲4.8	▲0.4	2.5	▲0.0
鉱物性燃料	29.6	20.3	29.9	▲34.2	▲33.9	▲35.8	1.6	▲0.8
化学製品	0.5	▲1.6	▲13.0	▲15.3	▲19.6	▲16.4	13.2	▲2.4
原料別製品	0.5	▲2.2	▲9.2	▲13.9	▲15.9	▲10.9	15.9	▲1.8
鉄鋼	▲5.5	▲1.5	▲15.2	▲18.8	▲16.6	▲16.6	7.0	▲1.3
非鉄金属	11.1	1.3	▲1.7	▲11.8	▲21.2	▲1.0	3.1	▲0.0
金属製品	5.1	▲0.4	▲5.9	▲8.3	▲5.3	▲3.0	1.7	▲0.0
一般機械	▲8.4	▲13.5	▲10.5	▲12.9	▲12.9	▲6.0	22.1	▲1.3
電気機器	▲3.8	▲12.7	▲10.2	▲10.9	▲11.6	▲4.1	21.3	▲0.8
半導体等電子部品	▲7.9	▲20.3	▲14.3	▲12.0	▲14.6	▲4.3	8.0	▲0.3
I C	▲8.1	▲22.3	▲12.9	▲7.6	▲11.4	▲4.3	5.6	▲0.2
映像記録・再生機器	▲15.7	14.7	▲44.3	▲23.2	1.1	15.5	0.9	0.1
音響・映像機器の部分品	10.7	▲14.0	▲18.0	▲22.2	▲17.5	▲7.0	0.7	▲0.1
電気回路等の機器	4.2	▲9.0	▲4.6	▲7.6	▲9.8	▲5.0	3.5	▲0.2
輸送用機器	3.7	▲0.6	▲0.6	▲10.5	▲5.3	▲1.3	9.6	▲0.1
自動車	10.1	18.3	8.0	▲10.7	▲1.2	2.1	4.7	0.1
自動車の部分品	13.3	0.7	1.3	▲17.4	▲9.3	▲5.7	4.0	▲0.2
その他	12.3	▲3.5	▲6.2	▲1.2	▲10.9	8.7	13.0	1.0
科学光学機器	17.7	14.0	13.6	1.7	▲6.0	8.1	3.8	0.3

中国向け輸出金額 内訳								
	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01	2012/02		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.7	▲8.2	▲7.9	▲16.3	▲20.2	▲13.9	100.0	▲13.9
食料品	▲54.0	▲74.5	▲35.8	▲32.3	7.3	▲25.7	0.2	▲0.1
原料品	10.2	▲1.1	2.9	▲6.7	▲14.4	▲1.5	3.7	▲0.0
鉱物性燃料	▲4.3	11.0	48.7	▲68.6	▲23.4	▲25.0	0.8	▲0.2
化学製品	7.4	▲3.2	▲10.8	▲13.0	▲23.0	▲15.9	13.4	▲2.2
原料別製品	6.6	▲1.4	▲3.2	▲15.2	▲21.4	▲9.5	14.4	▲1.3
鉄鋼	2.7	▲5.9	▲13.4	▲17.7	▲25.9	▲15.7	5.2	▲0.8
非鉄金属	18.8	6.0	21.7	▲14.3	▲18.9	8.9	3.4	0.2
金属製品	5.2	1.4	▲4.8	▲13.3	▲17.0	▲14.2	1.7	▲0.2
一般機械	0.9	▲13.4	▲14.1	▲28.4	▲31.0	▲28.0	22.7	▲7.6
電気機器	▲3.6	▲14.6	▲9.8	▲7.8	▲13.3	▲9.3	22.5	▲2.0
半導体等電子部品	▲1.3	▲21.8	▲6.6	8.0	▲3.4	0.4	8.5	0.0
I C	2.3	▲25.1	▲6.7	14.9	4.3	▲0.7	6.0	▲0.0
映像記録・再生機器	▲30.4	29.1	▲52.9	▲15.2	▲2.7	37.9	1.3	0.3
音響・映像機器の部分品	29.0	▲1.4	▲14.7	▲17.3	▲29.9	▲25.9	0.8	▲0.2
電気回路等の機器	▲2.2	▲8.7	▲2.9	▲14.1	▲16.1	▲9.6	3.8	▲0.3
輸送用機器	13.2	10.7	▲2.5	▲19.0	▲13.5	▲5.0	11.3	▲0.5
自動車	7.7	13.9	▲8.5	▲23.4	▲17.0	▲8.2	5.2	▲0.4
自動車の部分品	15.6	6.5	3.2	▲16.2	▲8.6	▲7.8	5.5	▲0.4
その他	1.4	▲12.7	▲4.1	▲1.1	▲13.8	▲0.1	11.0	▲0.0
科学光学機器	21.4	21.3	18.1	7.5	▲8.0	16.9	5.2	0.6

(出所) 財務省統計より大和総研作成